



2026年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年4月14日

上場会社名 株式会社グッドパッチ 上場取引所 東  
 コード番号 7351 URL https://goodpatch.com/  
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）土屋 尚史  
 問合せ先責任者（役職名）執行役員（氏名）坂口 友紀（TEL）03(6416)9238  
 半期報告書提出予定日 2026年4月14日 配当支払開始予定日 -  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け、個人投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年8月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年9月1日～2026年2月28日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期中間期	2,578	4.4	262	△20.4	336	△1.1	216	△6.7
2025年8月期中間期	2,468	19.6	329	334.8	340	333.9	231	442.4

（注）包括利益 2026年8月期中間期 262百万円（13.4%） 2025年8月期中間期 231百万円（413.6%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期中間期	24.76	24.66
2025年8月期中間期	26.19	26.08

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期中間期	5,073	4,323	84.7
2025年8月期	5,245	4,145	78.6

（参考）自己資本 2026年8月期中間期 4,296百万円 2025年8月期 4,121百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2026年8月期	—	0.00			
2026年8月期（予想）			—	10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の連結業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,600	10.1	560	0.5	632	3.1	409	0.5	46.83

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有  
 新規 1社 (社名) 株式会社Layermate 、 除外 1社 (社名) -

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年8月期中間期	9,246,820株	2025年8月期	9,246,620株
② 期末自己株式数	2026年8月期中間期	512,847株	2025年8月期	512,827株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2026年8月期中間期	8,733,816株	2025年8月期中間期	8,852,185株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料のP. 6「1. 当中間決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 中間連結貸借対照表	7
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	9
中間連結損益計算書	9
中間連結包括利益計算書	10
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等の注記)	13
(重要な後発事象の注記)	13

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が見られる一方で、米国の政策動向や国際情勢に伴う地政学的リスク、金融資本市場の変動、物価上昇、個人消費の低迷等の影響により、国内外の経済見通しは依然として不透明な状況が続くと考えられます。

また、デジタルトランスフォーメーション(DX)(注1)やAI(人工知能)の進展により、社会や産業構造は大きな変革期を迎えています。AI市場は今後も持続的な成長が見込まれ、生成AIは単なる「コンテンツ生成ツール」を超え、社会インフラを支える「基盤技術」へと進化しています。マーケティングやデザイン生成、人手不足対応等、生産性向上のあらゆる領域で活用が広がり、実験段階から社会実装フェーズへと移行しております。

こうした環境下、日本企業では、持続的な成長の実現に向けて、先行投資や経営戦略への注力が一層進んでいます。特に、DXやAIの活用による事業革新・業務効率化、新たな企業価値の創出に向けた取り組みが加速しており、加えて、社会課題への対応やステークホルダーとの関係強化を目的に、企業の存在意義やミッションの再構築を行う動きも増加しています。当社グループは、顧客企業の変革を支援すべく、「デザイン×AI」の取り組みを一層加速させています。強みであるUI/UX(注2)を起点に事業領域の拡大を進めるとともに、「AI Driven Design Company」として、AIを活用したサービスの高度化とAI領域への戦略的投資を推進し、日本のデザイン業界におけるリーディングカンパニーとしての地位を確立しつつ、次なる成長フェーズへと歩みを進めてまいります。

主要事業であるデザインパートナー事業においては、当社の強みである戦略デザインやUI/UXデザインと、連結子会社である株式会社スタジオディテイルズの強みである質の高いクリエイティブとブランディングを融合し、顧客企業のさらなる期待に応えられるよう、デザイン支援の提供を行ってまいりました。また、デザインプラットフォーム事業においては、デザイナー人材紹介サービス「ReDesigner」やオンラインホワイトボードツール「Strap」を中心に、デザインパートナー事業で培ったノウハウやブランドを有効活用しながら、事業を推進しております。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は2,578,600千円(前年同期比4.4%増)、営業利益は262,649千円(前年同期比20.4%減)、経常利益は336,633千円(前年同期比1.1%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は216,234千円(前年同期比6.7%減)となりました。

報告セグメント別の業績の状況は以下のとおりであります。

① デザインパートナー事業

デザインパートナー事業は、顧客企業と当社のデザイナーが一体となりプロジェクト形式で包括的なデザインサービスを提供しております。最初に、サービスやブランド等の新たな価値を創出したい顧客企業とともにプロジェクトチームを立ち上げ、プロジェクトで解決する課題を抽出します。プロジェクトが開始されると、本質的な価値の発見が行われ、顧客企業の独自の強みや特徴が明らかにされます。このフェーズでは、プロジェクトチームが顧客企業と緊密に連携し、価値の源泉を特定し、その価値を洗練するための手段・プロセスの検討が行われます。次に、顧客企業の利用者(ユーザー)を特定し、ユーザーにとって利用しやすいものとなるよう、ユーザーの価値観に合致するデザインが開発されます。このフェーズでは、プロジェクトチームはデザインの詳細な要件を抽出し、ユーザーフィードバックを絶えず取り入れて調整を行います。こうして生み出されたデザインは顧客企業の戦略とブランディング活動に統合され、企業のビジョンと目標に紐づく事業活動に一貫性をもたらしめます。なお、アプリケーションのUI/UXデザイン開発においては、当社のエンジニアリングチームもプロジェクトに参画し、実際のデジタルプロダクトの構築を行うことがあります。これら一連のプロセスを通じて、顧客企業は既存のビジネスプロセスをデジタル化し、イノベーションを促進でき、効率性の向上や新しい価値の提供が可能となります。

近年、DXの進展により企業のデジタル領域における変革ニーズが高まる中、デザインの重要性は一層高まっております。このような環境下において、当事業では顧客企業ごとの課題やニーズに応じた柔軟な提案を行い、ソリューションの幅を拡張するとともに、AI活用を推進することで、高付加価値かつ高効率なアウトプットの提供を通じた業績拡大に取り組んでまいりました。当期においては、AI関連案件の獲得を優先的に進め、ノウハウやナレッジの蓄積を図るとともに、各種デザイン業務におけるAI活用を推進し、スピードとクオリティの両立に取り組んでおります。合わせて、社内のAIリテラシー向上を進め、「デザイン×AI」の取り組みを強化しております。

また、事業成長に向けた基盤強化として、デザイナーの採用を積極的に行い、提供リソースであるデザイナー人員の拡充を進め、幅広い業種・業態の顧客企業に対するデザイン支援が可能となっております。さらに、日本国内の正社員デザイン部門及び「Goodpatch Anywhere」との連携を強化し、営業リードの共有、プロジェクトの獲得、デザイナーリソースの相互活用を通じて、事業全体の成長を推進しております。

当第2四半期連結会計期間においては、当社ならびに株式会社スタジオディテイルズ及びGoodpatch Anywhereを含むプロジェクト提供を行った顧客社数(注3)は64.3社(前年同期は61.0社、前年同期比5.5%増)、月額平均顧客単価(注4)は6,364千円(前年同期は6,221千円、前年同期比2.3%増)となりました。大型プロジェクトの継続・拡張が順調に推移したことに加え、営業体制の再構築とマーケティング施策の実施が奏功し、有効商談数が増加したことで、月額平均顧客単価及び顧客社数はいずれも増加しました。

また、社内デザイン組織のデザイナー数は、当中間連結会計期間末において163名(前年同期比6.5%増)、「Goodpatch Anywhere」の所属デザイナー数は655名(前年同期比5.8%増、うち稼働デザイナー数は54名、前年同期比18.2%減)となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間におけるデザインパートナー事業の外部顧客への売上高は2,375,409千円(前年同期比3.9%増)、営業利益は284,667千円(前年同期比19.6%減)となりました。

(デザインパートナー事業のKPI推移)

	2025年8月期				2026年8月期		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	前年同期比
顧客社数 (社)	60.7	61.0	63.7	62.7	63.0	64.3	5.5%
月額平均顧客単価 (千円)	5,868	6,221	6,322	5,887	5,860	6,364	2.3%

② デザインプラットフォーム事業

デザインプラットフォーム事業は、主要事業であるデザインパートナー事業の周辺領域において、人材及びソフトウェア分野を深耕し、事業全体の拡大をサポートしております。具体的には、デザイナー向けキャリア支援サービス「ReDesigner」やオンラインホワイトボードツール「Strap」で構成され、各サービス間のシナジー創出を図ることで、デザイン関連ビジネスの拡大に取り組んでおります。

当第2四半期連結会計期間において、「ReDesigner」では、ダイレトリクルーティング機能の強化を通じて、新たなキャリアを積みたいデザイナーとデザイナーを採用したい企業とのミスマッチを減らし、プラットフォームの拡大に取り組んでおります。ダイレトリクルーティングが引き続き順調に伸長するとともに、第1四半期に落ち込んでいた人材紹介事業の売上が第2四半期に大きく回復したことにより、12月から2月の各月において計画を上回る進捗となりました。また、「Strap」では、顧客企業の課題に対し、AIソリューションの提供及び業務プロセスの改善提案を推進した結果、既存顧客との契約拡張及び新規契約の獲得を実現し、売上の伸長に寄与しました。

以上の結果、当中間連結会計期間におけるデザインプラットフォーム事業の外部顧客への売上高は203,190千円(前年同期比11.4%増)、営業損失は21,868千円(前年同期は24,339千円の営業損失)となりました。

- (注) 1. デジタルトランスフォーメーション(DX)とは、Digital Transformationの略語で、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することを意味します。
2. UI(User Interface/ユーザーインターフェース)とは、「ユーザーがPCやスマートフォン等のデバイスとやり取りをする際の入力や表示方法などの仕組み」を意味します。また、UX(User Experience/ユーザーエクスペリエンス)は「サービスなどによって得られるユーザー体験」のことを意味します。
3. 顧客社数とは、デザインパートナー事業において、当社グループとデザインプロジェクトを進めるために契約した顧客企業の社数を指しており、1か月にデザイン支援を提供した顧客社数の当該期間の平均値を示しています。
4. 月額平均顧客単価とは、四半期ごとの売上高を顧客社数で除した数値の平均値を示しています。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産、負債及び純資産の状況)

#### (資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて191,486千円減少し、3,204,211千円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少256,074千円があった一方で、売掛金及び契約資産の増加15,529千円があったこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて19,855千円増加し、1,869,584千円となりました。主な要因は、デザインパートナー投資の実行等による投資有価証券の増加82,441千円があった一方で、繰延税金資産の減少50,634千円があったこと及び償却によるのれんの減少17,483千円があったこと等によるものであります。

この結果、当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて171,631千円減少し、5,073,796千円となりました。

#### (負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ299,912千円減少し、656,544千円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少113,375千円、賞与引当金の減少91,751千円、未払消費税等の減少52,503千円あったこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ50,527千円減少し、93,265千円となりました。主な要因は、借入金の返済による長期借入金の減少51,728千円があったこと等によるものであります。

この結果、当中間連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて350,440千円減少し、749,809千円となりました。

#### (純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べて178,808千円増加し、4,323,986千円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金の増加46,157千円、親会社株主に帰属する中間純利益計上等に伴う利益剰余金の増加128,896千円によるものであります。

### (キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ256,074千円減少し、2,477,059千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは60,077千円の支出(前年同期は329,241千円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益の計上342,411千円等の増加要因があった一方で、賞与引当金の減少額91,751千円、未払消費税等の減少額52,503千円、法人税等の支払額207,708千円等の減少要因があったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは39,139千円の支出(前年同期は49,794千円の支出)となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出15,111千円及び連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出18,000千円等の減少要因があったことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは156,938千円の支出(前年同期は212,592千円の支出)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出74,579千円及び配当金の支払額81,689千円等の減少要因があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年8月期通期の業績予想については、2025年10月15日の「2025年8月期通期決算短信」で公表いたしました業績予想から変更はございません。

今後、業績予想の数字に影響を及ぼす事態が生じた場合には、速やかに公表いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,733,133	2,477,059
売掛金及び契約資産	584,262	599,791
仕掛品	9,565	8,954
前払費用	55,483	93,485
未収還付法人税等	6	-
その他	13,247	24,920
流動資産合計	3,395,698	3,204,211
固定資産		
有形固定資産		
建物	75,179	75,179
減価償却累計額	△42,101	△46,945
建物(純額)	33,078	28,233
工具、器具及び備品	59,906	62,001
減価償却累計額	△52,652	△54,367
工具、器具及び備品(純額)	7,254	7,634
リース資産	9,680	9,680
減価償却累計額	△1,152	△1,843
リース資産(純額)	8,527	7,836
有形固定資産合計	48,860	43,704
無形固定資産		
商標権	1,247	1,125
のれん	349,070	331,586
顧客関連資産	45,222	41,111
無形固定資産合計	395,540	373,823
投資その他の資産		
投資有価証券	1,310,160	1,392,601
敷金及び保証金	23,325	35,258
繰延税金資産	51,563	928
その他	20,279	23,269
投資その他の資産合計	1,405,328	1,452,057
固定資産合計	1,849,729	1,869,584
資産合計	5,245,428	5,073,796

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	99,609	112,757
1年内返済予定の長期借入金	130,423	107,572
未払金	142,063	111,258
未払費用	39,493	33,516
未払法人税等	219,888	106,513
未払消費税等	112,933	60,430
契約負債	61,599	67,534
リース債務	1,367	1,400
賞与引当金	100,347	8,596
預り金	48,730	41,129
その他	-	5,835
流動負債合計	956,456	656,544
固定負債		
長期借入金	108,426	56,698
リース債務	8,188	7,480
資産除去債務	11,608	11,616
繰延税金負債	15,570	17,470
固定負債合計	143,793	93,265
負債合計	1,100,250	749,809
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,774,543	1,774,568
資本剰余金	1,761,139	1,761,164
利益剰余金	821,244	950,141
自己株式	△250,168	△250,180
株主資本合計	4,106,759	4,235,692
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,192	61,350
為替換算調整勘定	△128	△127
その他の包括利益累計額合計	15,064	61,223
新株予約権	23,353	27,070
純資産合計	4,145,177	4,323,986
負債純資産合計	5,245,428	5,073,796

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
売上高	2,468,955	2,578,600
売上原価	1,030,994	1,115,056
売上総利益	1,437,961	1,463,543
販売費及び一般管理費	1,108,055	1,200,894
営業利益	329,906	262,649
営業外収益		
受取利息	1,567	2,554
受取配当金	-	64,830
持分法による投資利益	12,756	14,180
為替差益	44	327
その他	2,780	2,696
営業外収益合計	17,147	84,589
営業外費用		
支払利息	1,209	1,074
株式交付費	0	31
新株予約権発行費	552	552
投資事業組合運用損	3,450	8,946
支払手数料	1,317	-
その他	169	0
営業外費用合計	6,698	10,604
経常利益	340,355	336,633
特別利益		
投資有価証券売却益	-	5,002
関係会社清算益	971	-
新株予約権戻入益	3,054	775
特別利益合計	4,026	5,777
税金等調整前中間純利益	344,381	342,411
法人税、住民税及び事業税	70,327	95,224
法人税等調整額	45,721	31,002
法人税等合計	116,048	126,226
中間純利益	228,332	216,184
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△3,540	△50
親会社株主に帰属する中間純利益	231,873	216,234

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
中間純利益	228,332	216,184
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	87	46,157
為替換算調整勘定	2,923	0
その他の包括利益合計	3,011	46,158
中間包括利益	231,343	262,343
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	234,884	262,393
非支配株主に係る中間包括利益	△3,540	△50

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	344,381	342,411
減価償却費	9,396	11,608
のれん償却額	32,375	35,483
賞与引当金の増減額(△は減少)	25,992	△91,751
受取利息及び受取配当金	△1,567	△67,385
支払利息	1,209	1,074
株式交付費	0	31
持分法による投資損益(△は益)	△12,756	△14,180
投資有価証券売却損益(△は益)	-	△5,002
関係会社清算益	△971	-
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	△109,662	△15,529
棚卸資産の増減額(△は増加)	△18,826	611
前払費用の増減額(△は増加)	△16,803	△38,024
仕入債務の増減額(△は減少)	43,626	13,148
未払金の増減額(△は減少)	△9,432	△30,812
未払費用の増減額(△は減少)	△8,570	△5,977
契約負債の増減額(△は減少)	△21,051	5,935
未払消費税等の増減額(△は減少)	46,106	△52,503
その他	△21,797	△7,923
小計	281,648	81,214
利息及び配当金の受取額	1,427	67,463
利息の支払額	△1,191	△1,052
法人税等の支払額	△2,681	△207,708
法人税等の還付額	50,037	6
営業活動によるキャッシュ・フロー	329,241	△60,077
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,675	△1,543
敷金及び保証金の差入による支出	△119	△15,695
投資有価証券の取得による支出	△48,000	△15,111
投資有価証券の売却による収入	-	5,002
投資事業組合からの分配による収入	-	5,208
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△18,000
その他	-	1,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△49,794	△39,139
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△85,561	△74,579
自己株式の取得による支出	△151,331	△11
配当金の支払額	-	△81,689
非支配株主からの払込みによる収入	24,500	-
新株予約権の行使による株式の発行による収入	231	17
リース債務の返済による支出	△431	△675
財務活動によるキャッシュ・フロー	△212,592	△156,938
現金及び現金同等物に係る換算差額	△140	81
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	66,714	△256,074
現金及び現金同等物の期首残高	3,275,145	2,733,133
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,341,860	2,477,059

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前中間連結会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

株主資本の著しい変動

当社は、2024年10月15日開催の取締役会決議に基づき、当中間連結会計期間において自己株式338,500株の取得を行っております。この結果、当中間連結会計期間において、自己株式が149,991千円増加し、当中間連結会計期間末において自己株式が250,114千円となっております。

当中間連結会計期間(自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)

株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	中間 連結損益 計算書 計上額
	デザイン パートナー事業	デザイン プラットフォーム 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,286,537	182,418	2,468,955	—	2,468,955
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,286,537	182,418	2,468,955	—	2,468,955
セグメント利益又は損失 (△)	354,246	△24,339	329,906	—	329,906

(注) セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当中間連結会計期間(自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	中間 連結損益 計算書 計上額
	デザイン パートナー事業	デザイン プラットフォーム 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,375,409	203,190	2,578,600	—	2,578,600
セグメント間の内部 売上高又は振替高	150	—	150	△150	—
計	2,375,559	203,190	2,578,750	△150	2,578,600
セグメント利益又は損失 (△)	284,667	△21,868	262,799	△150	262,649

(注) セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象の注記)

該当事項はありません。